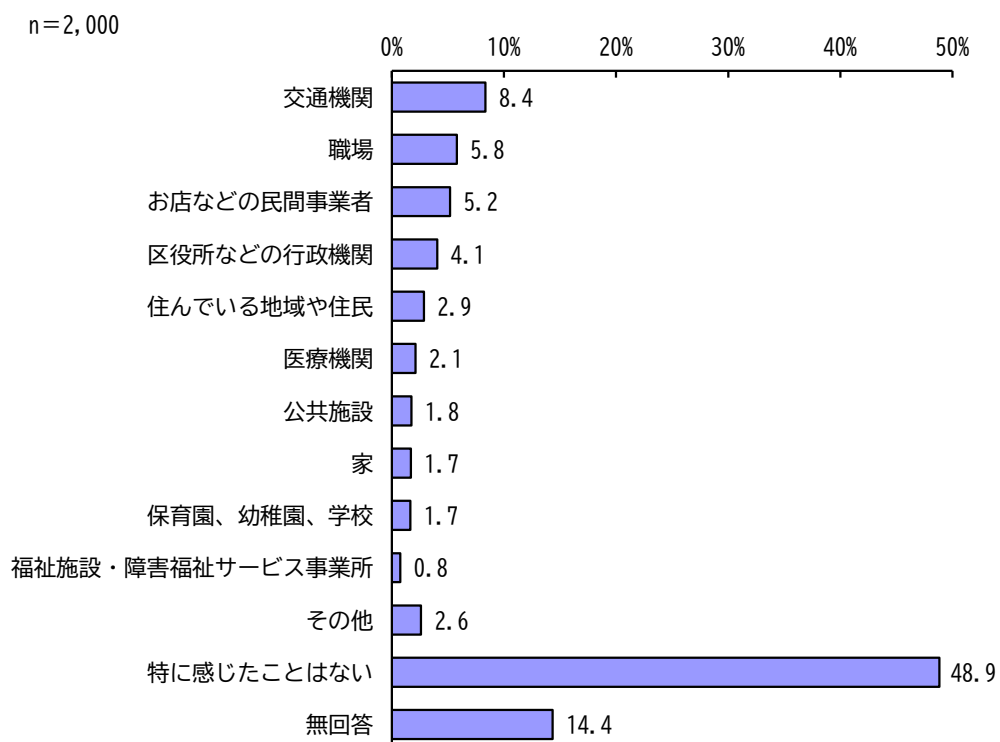


【在宅の方を対象にした調査】

(5) 地域で差別を感じる場面

問 35 あなたが、地域で障害者への差別や合理的配慮の不提供を感じる場面をお聞かせください。(あてはまるものすべてに○)



地域で障害者への差別や合理的配慮の不提供を感じる場面は、「交通機関」が 8.4%と最も高く、次いで「職場」が 5.8%、「お店などの民間事業者」が 5.2%と続いています。

一方、「特に感じたことはない」は 48.9%と 5 割近くを占めています。

【クロス集計】障害別

	n	家	職場	福祉施設・ 障害福祉 サービス事 業所	お店などの 民間事業者	住んでいる 地域や住民	公共施設	区役所など の行政機関
(単位: %)								
全体	2,000	1.7	5.8	0.8	5.2	2.9	1.8	4.1
肢体不自由	283	1.8	2.1	0.4	7.8	2.5	1.4	3.5
音声・言語・そしゃく機能障害	77	5.2	1.3	1.3	6.5	3.9	2.6	2.6
視覚障害	144	2.1	1.4	0.7	7.6	0.7	2.1	6.3
聴覚・平衡機能障害	146	1.4	4.1	0.0	10.3	1.4	1.4	2.7
内部障害	278	1.1	3.2	0.4	4.7	2.2	1.8	2.2
知的障害	231	0.9	4.3	1.7	6.5	3.5	3.9	2.6
発達障害	187	3.2	9.6	2.7	4.8	7.0	3.7	4.8
精神障害	464	4.3	11.9	1.1	4.1	5.8	0.9	5.4
高次脳機能障害	44	0.0	9.1	2.3	11.4	2.3	2.3	2.3
難病（特定疾病）	632	1.1	4.6	0.3	5.9	0.9	2.1	4.4
その他	35	5.7	5.7	5.7	5.7	5.7	0.0	0.0

	n	医療機関	交通機関	保育園、幼 稚園、学校	その他	特に感じた ことはない	無回答
(単位: %)							
全体	2,000	2.1	8.4	1.7	2.6	48.9	14.4
肢体不自由	283	0.7	11.7	1.1	2.1	44.5	20.5
音声・言語・そしゃく機能障害	77	1.3	7.8	2.6	1.3	40.3	23.4
視覚障害	144	0.7	7.6	1.4	3.5	44.4	21.5
聴覚・平衡機能障害	146	4.8	5.5	0.7	2.1	52.1	13.7
内部障害	278	1.8	8.3	0.4	1.8	55.0	17.3
知的障害	231	2.6	8.7	4.8	2.2	39.4	19.0
発達障害	187	3.2	9.1	3.2	4.8	35.3	8.6
精神障害	464	3.7	8.0	0.4	3.9	40.5	10.1
高次脳機能障害	44	2.3	9.1	0.0	2.3	43.2	13.6
難病（特定疾病）	632	0.8	9.5	2.1	2.2	52.4	13.8
その他	35	5.7	5.7	2.9	11.4	25.7	20.0

障害別にみると、“肢体不自由”では「交通機関」が、“聴覚・平衡機能障害”と“高次脳機能障害”では「お店などの民間事業者」が、“精神障害”では「職場」がそれぞれ1割を超えています。

(6) 地域に求める合理的配慮

問 36 あなたが、地域(行政機関、民間事業者、住民等)に求める合理的配慮がありましたらお聞かせください。(自由記入)

地域に求める合理的配慮についての意見は 258 件ありました。「障害理解・思いやり・偏見の排除」についての意見が 22.5%と最も多く、次いで「交通事情・バリアフリー」が 16.3%、「行政・各種手続き」が 14.0%となっています。

主な意見は以下の通りです。

	総数	障害理解・思いやり・偏見の排除	交通事情・バリアフリー	行政・各種手続き	アクセシビリティ・テクノロジーの活用	情報周知・啓発	福祉サービス	雇用・就労	休憩・トイレ	経済事情・経済的支援	将来の生活	その他
合理的配慮	258	22.5	16.3	14.0	8.1	8.1	8.1	6.6	3.9	3.5	1.6	7.4

◆主な意見（内容は要約・省略しています）

1. 障害理解・思いやり・偏見の排除（58 件）

- ・障害者を完全なる弱者と決めつけるのではなく、一部に配慮を要する人として認識して、できない部分は補いつつ、できる部分はできる部分として尊重してほしい。個人の尊厳として必要なことだと思う。
- ・より多くの人に関心をもってもらいたい。
- ・病気について理解してもらい、配慮してほしい。
- ・パニックを起こしたときに、偏見の目で見るとのをやめてほしい。

2. 交通事情・バリアフリー（42 件）

- ・社会的弱者に対する地域（行政機関、民間事業者、住民等）の配慮が足りていない。視覚障害者に対する歩道の黄色のブロックや点字、聴覚障害者に対する横断歩道の音楽（チャイム）、車イスの方の公共交通機関の配慮など。
- ・飲食店等でバリアフリーになっていない所が多々ある。階段利用が不自由だが、手すりがなかったり、エレベーターもないところがある。交通機関でエレベーターを利用するには、かなり遠回りしなければならないことも多い。

3. 行政・各種手続き（36 件）

- ・行政機関を利用する際、聴覚過敏があるので、周囲が気になる時は個室等静かな場所を利用させてほしい。口頭での説明は聞き取りや記憶が難しいこともあるので、そのような時は丁寧に説明してほしい。きちんとメモが取れるまで待つてほしい。

- ・難病申請や更新手続きが煩雑で病院からいただく診断書も有料（しかも高め）なので、毎年億劫です。

4. アクセシビリティ・テクノロジーの活用（21 件）

- ・行政機関で電話予約や直接の訪問が必要とされることが多いが、音声でのコミュニケーションが困難、移動のハードルが高いなどがあるので、メール文章での対応が広がってほしい。
- ・病院等への問い合わせ手段が電話しかない、非常に音質が悪いことがある。公的側面の強い機関ではテキストチャットやメール、SMS などの代替手段を常に備えてほしい。

5. 情報周知・啓発（21 件）

- ・合理的配慮という言葉の周知。
- ・ヘルプマーク、ヘルプカードの周知、啓発を徹底してほしい。
- ・個別性が高いのはわかるが、合理的配慮の基準が分かりづらい。

6. 福祉サービス（21 件）

- ・デイサービスに通っている者ですが、福祉サービスをして頂くのは大変ありがたいのですが、福祉施設で働く人たちを見ていると経営ギリギリで忙しそうです。その事も考えて頂けると良いかなと思っています。
- ・福祉関係で人手が足りないことで、支援の回数や場が制限されることが多いため、希望が通らないことが多い。

7. 雇用・就労（17 件）

- ・職場に対して、障害の程度に応じた目標管理と業務内容、残業の扱い（今は健常者と同じレベルで実施しています）。
- ・仕事（障害を公表して）に就くことへのハードルが高い。賃金も安く、障がい隠してアルバイトや派遣をした方がいい気がしてしまう。

8. 休憩・トイレ（10 件）

- ・誰でもトイレに一般の人が入っていたり、誰でもトイレが無い場所や、公園だとトイレすら無い所もある。トイレは障害や病気にかかわらず、誰もが使うものなので、公共の場の整備はしてほしい。
- ・町中にちょっと休めるベンチがほしい。

9. 経済事情・経済的支援（9 件）

- ・特に労働者世代における年金保険料の低減。

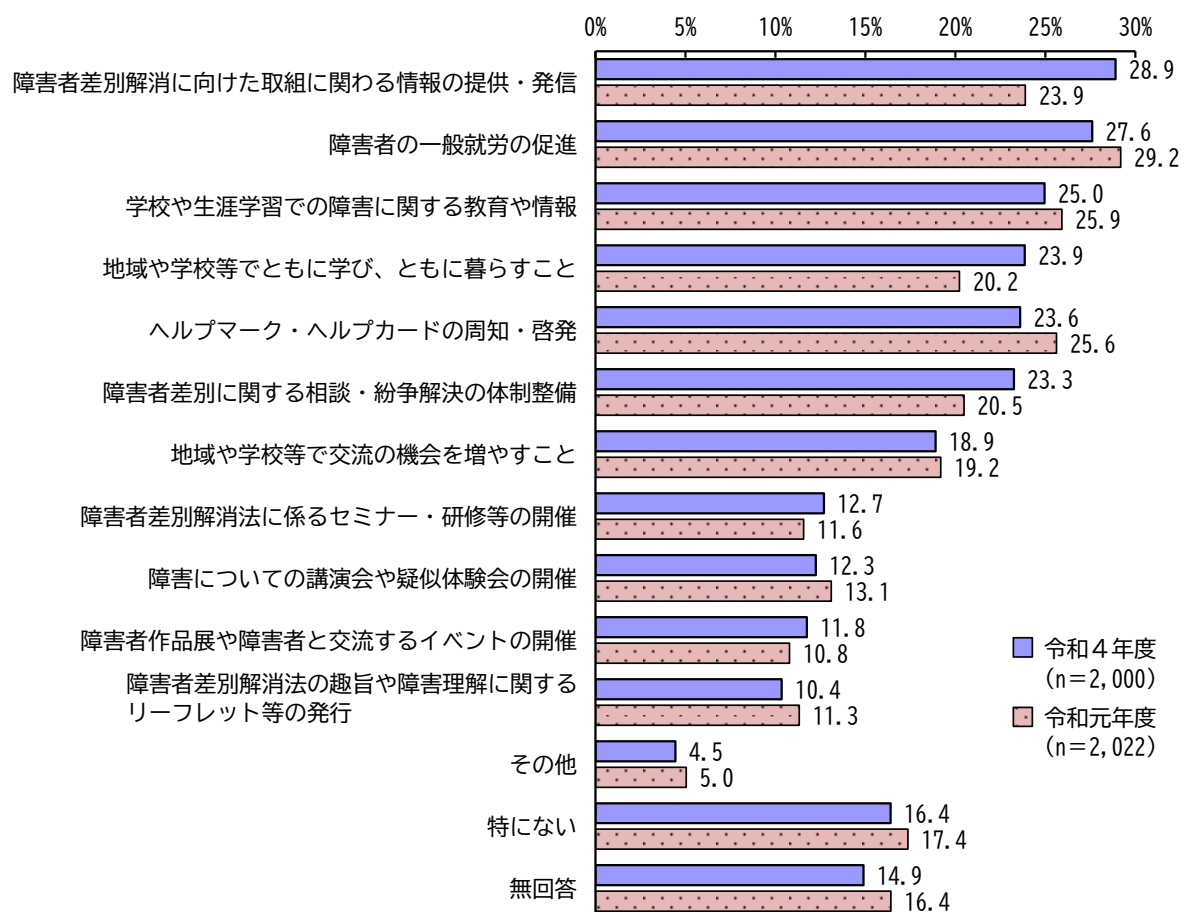
- ・東京メトロの障害者無料サービス。タクシー料金の半額化。家賃補助給付金。

10. 将来の生活（4件）

- ・自立するための住まい（グループホーム）を増やして欲しい。できれば作業所を続けたいので通所できる場所を希望する。（場所が変わると慣れるまでとても時間がかかるため）
- ・保護者亡き後、本人がスムーズに生活を送れるようにサポートしてくれると安心します。例えばもし両親兄弟が亡くなって1人になった時、文京区役所のここに電話すれば相続の手続きなど任せてできるシステムがあるとありがたいです。

（7）差別解消に必要なこと

問 37 障害者の差別解消を進めていくために必要なことはなんだと思いますか。
（あてはまるものすべてに○）



障害者の差別解消を進めていくために必要なことは、「障害者差別解消に向けた取組に関わる情報の提供・発信」が 28.9%と約 3 割で最も高く、次いで「障害者の一般就労の促進」が 27.6%、「学校や生涯学習での障害に関する教育や情報」が 25.0%と続いています。

一方、「特にない」は 16.4%となっています。

令和元年度と比較すると、「障害者差別解消に向けた取組に関わる情報の提供・発信」が 5.0 ポイント、「地域や学校等でともに学び、ともに暮らすこと」が 3.7 ポイント、「障害者差別に関する相談・紛争解決の体制整備」が 2.8 ポイント上がっており、反対に「ヘルプマーク・ヘルプカードの周知・啓発」が 2.0 ポイント、「障害者の一般就労の促進」が 1.6 ポイント下がっています。

【クロス集計】 障害別

	n	障害者差別に関する相談・紛争解決の体制整備	障害者差別解消に向けた取組に関わる情報の提供・発信	障害者差別解消法に係るセミナー・研修等の開催	障害者差別解消法の趣旨や障害理解に関するリーフレット等の発行	障害者作品展や障害者と交流するイベントの開催	地域や学校等で交流の機会を増やすこと	地域や学校等とともに学び、ともに暮らすこと
(単位: %)								
全体	2,000	23.3	28.9	12.7	10.4	11.8	18.9	23.9
肢体不自由	283	18.7	28.6	11.7	9.9	12.4	17.3	20.8
音声・言語・そしゃく機能障害	77	27.3	32.5	13.0	10.4	11.7	16.9	26.0
視覚障害	144	27.8	31.3	16.7	16.7	15.3	22.2	25.0
聴覚・平衡機能障害	146	19.2	32.2	15.1	15.1	8.2	17.8	23.3
内部障害	278	19.4	27.7	9.4	9.0	9.4	15.5	17.6
知的障害	231	22.9	27.7	13.9	14.7	19.5	29.9	36.8
発達障害	187	36.9	42.8	23.5	16.6	17.1	29.9	34.8
精神障害	464	28.9	31.0	15.9	11.0	11.0	13.1	19.8
高次脳機能障害	44	11.4	20.5	4.5	2.3	11.4	13.6	22.7
難病（特定疾病）	632	22.9	29.1	10.8	9.2	10.3	21.5	25.6
その他	35	20.0	22.9	25.7	14.3	11.4	20.0	17.1

	n	学校や生涯学習での障害に関する教育や情報	障害についての講演会や疑似体験会の開催	障害者の一般就労の促進	ヘルプマーク・ヘルプカードの周知・啓発	その他	特にない	無回答
(単位: %)								
全体	2,000	25.0	12.3	27.6	23.6	4.5	16.4	14.9
肢体不自由	283	21.2	13.8	21.6	21.2	4.2	13.1	24.0
音声・言語・そしゃく機能障害	77	26.0	13.0	16.9	18.2	3.9	7.8	22.1
視覚障害	144	29.9	16.7	27.1	23.6	4.2	17.4	17.4
聴覚・平衡機能障害	146	19.9	11.6	28.1	24.7	2.7	19.9	16.4
内部障害	278	21.6	6.5	24.5	25.9	2.9	20.9	17.3
知的障害	231	30.3	16.5	29.4	25.5	2.2	14.3	12.6
発達障害	187	40.6	18.7	43.3	28.9	9.1	12.3	4.3
精神障害	464	22.4	14.0	34.3	22.6	8.8	14.7	11.2
高次脳機能障害	44	22.7	9.1	22.7	22.7	2.3	15.9	18.2
難病（特定疾病）	632	29.3	10.8	24.5	25.3	3.6	14.1	15.2
その他	35	22.9	8.6	22.9	22.9	17.1	17.1	25.7

障害別にみると、身体障害のある方では、「障害者差別解消に向けた取組に関わる情報の提供・発信」が2割半ばを超えて最も高くなっています。また、“発達障害”でも4割を超えています。

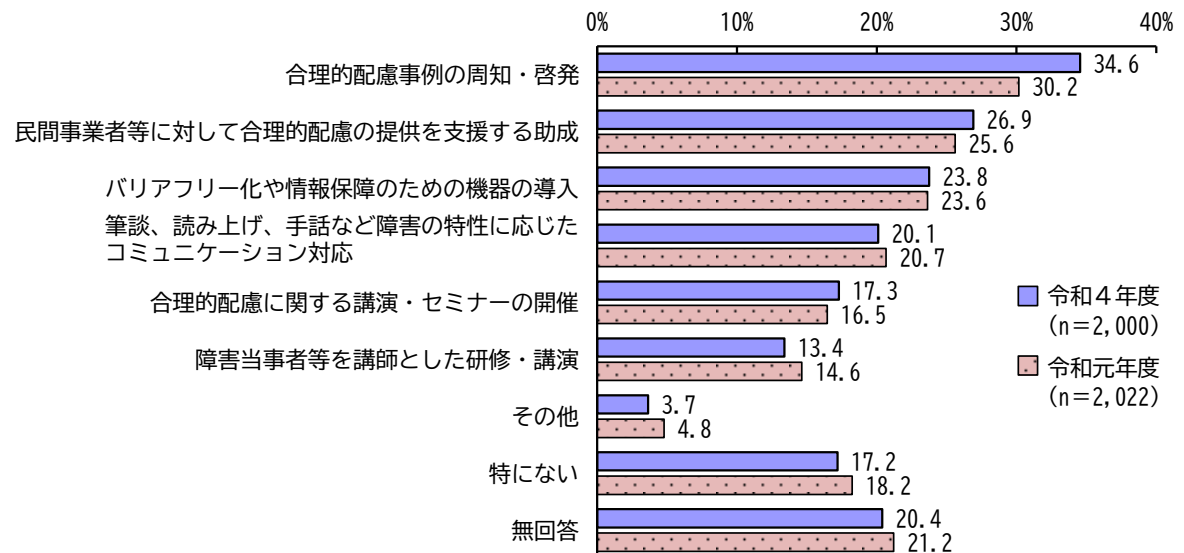
“知的障害”と“発達障害”では、「地域や学校等とともに学び、ともに暮らすこと」が3割半ば前後で高くなっています。

“高次脳機能障害”、“難病（特定疾病）”では、「学校や生涯学習での障害に関する教育や情報」が最も高くなっており、“発達障害”でも4割を超えています。

“発達障害”、“精神障害”、“高次脳機能障害”では、「障害者の一般就労の促進」が最も高く、特に“発達障害”では4割を超えて他の障害よりも高くなっています。

(8) 合理的配慮に必要なこと

問 38 社会的障壁の除去に向けて、合理的配慮を進めていくために必要なことはな
んだと思われますか。(あてはまるものすべてに○)



合理的配慮を進めていくために必要なことは、「合理的配慮事例の周知・啓発」が34.6%と3割半ば近くで最も高く、次いで「民間事業者等に対して合理的配慮の提供を支援する助成」が26.9%、「バリアフリー化や情報保障のための機器の導入」が23.8%と続いています。

一方、「特になし」は17.2%となっています。

令和元年度と比較すると、「合理的配慮事例の周知・啓発」が4.4ポイント上がっています。それ以外の項目ごとに増減はありますが、全体的な傾向については、大きな変化はありません。

【クロス集計】 障害別

	n	合理的配慮に関する講演・セミナーの開催	合理的配慮事例の周知・啓発	筆談、読み上げ、手話など障害の特性に応じたコミュニケーション対応	バリアフリー化や情報保障のための機器の導入	障害当事者等を講師とした研修・講演
(単位: %)						
全体	2,000	17.3	34.6	20.1	23.8	13.4
障害別						
肢体不自由	283	14.5	25.4	16.3	31.4	10.2
音声・言語・そしゃく機能障害	77	13.0	27.3	27.3	22.1	15.6
視覚障害	144	18.1	34.0	26.4	36.1	16.7
聴覚・平衡機能障害	146	17.1	29.5	36.3	28.8	9.6
内部障害	278	13.3	32.7	17.3	26.3	8.3
知的障害	231	19.5	36.4	20.8	16.5	13.0
発達障害	187	29.4	48.1	30.5	21.9	23.0
精神障害	464	21.6	38.6	14.2	15.7	19.0
高次脳機能障害	44	13.6	18.2	18.2	29.5	9.1
難病（特定疾病）	632	14.7	38.8	22.5	28.2	10.9
その他	35	31.4	42.9	14.3	25.7	25.7

	n	民間事業者等に対して合理的配慮の提供を支援する助成	その他	特になし	無回答
(単位: %)					
全体	2,000	26.9	3.7	17.2	20.4
障害別					
肢体不自由	283	20.5	3.2	12.7	30.0
音声・言語・そしゃく機能障害	77	18.2	3.9	11.7	33.8
視覚障害	144	25.0	4.2	16.7	20.8
聴覚・平衡機能障害	146	24.7	1.4	14.4	24.7
内部障害	278	23.7	1.8	18.7	24.5
知的障害	231	30.3	1.3	19.5	20.3
発達障害	187	42.8	5.3	13.9	12.3
精神障害	464	30.2	7.5	19.4	15.9
高次脳機能障害	44	11.4	2.3	11.4	36.4
難病（特定疾病）	632	30.9	3.6	13.3	18.2
その他	35	25.7	14.3	25.7	22.9

障害別にみると、“音声・言語・そしゃく機能障害”と“聴覚・平衡機能障害”では、「筆談、読み上げ、手話など障害の特性に応じたコミュニケーション対応」が最も高く、“視覚障害”と“発達障害”でも2割半ばを超えて他の障害よりも高くなっています。“肢体不自由”、“視覚障害”、“高次脳機能障害”では、「バリアフリー化や情報保障のための機器の導入」が最も高くなっています。

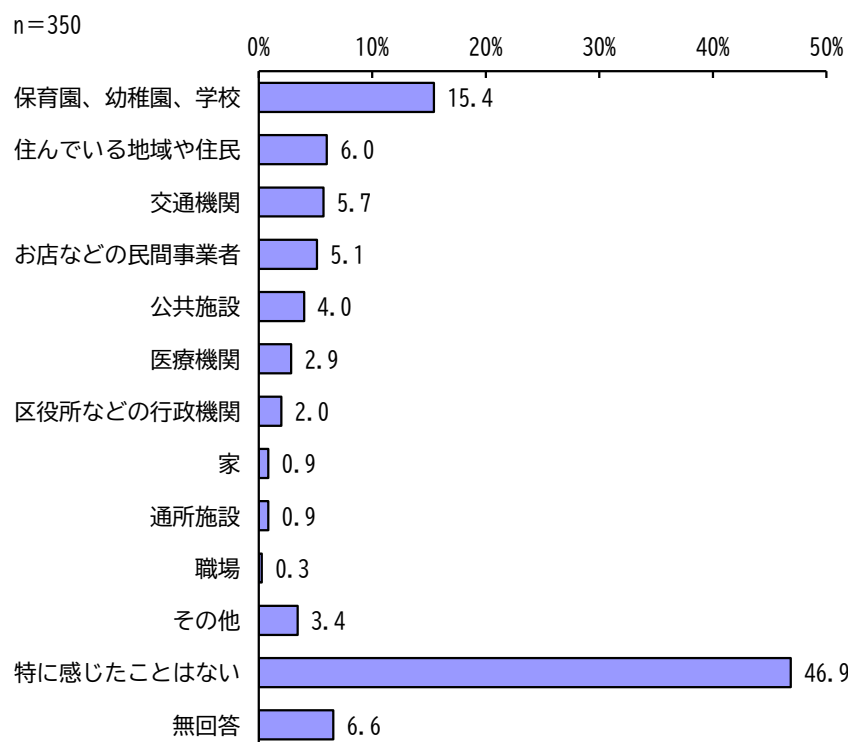
それ以外の障害では「合理的配慮事例の周知・啓発」が最も高くなっています。

また、“発達障害”では「民間事業者等に対して合理的配慮の提供を支援する助成」が42.8%と4割を超えており、他の障害よりも高くなっています。

【18 歳未満の方を対象にした調査】

(1) 地域で差別を感じる場面

問 38 あなたが、地域で障害者への差別や合理的配慮の不提供を感じる場面をお聞かせください。(あてはまるものすべてに○)



地域で障害者への差別や合理的配慮の不提供を感じる場面は、「保育園、幼稚園、学校」が 15.4%と最も高く、次いで「住んでいる地域や住民」が 6.0%、「交通機関」が 5.7%と続いています。

一方、「特に感じたことはない」は 46.9%となっています。

【クロス集計】 障害別

(単位:%)		n	家	職場	通所施設	お店などの 民間事業者	住んでいる 地域や住民	公共施設	区役所など の行政機関
全体		350	0.9	0.3	0.9	5.1	6.0	4.0	2.0
障害別	肢体不自由	30	0.0	0.0	3.3	6.7	10.0	3.3	3.3
	音声・言語・そしゃく機能障害	26	0.0	0.0	3.8	7.7	3.8	7.7	3.8
	視覚障害	12	0.0	0.0	8.3	8.3	0.0	0.0	0.0
	聴覚・平衡機能障害	14	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0	0.0
	内部障害	17	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	知的障害	140	0.0	0.0	0.7	7.9	9.3	7.1	0.7
	発達障害	213	0.9	0.5	0.9	5.2	7.5	4.7	1.9
	精神障害	3	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0
	高次脳機能障害	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	21	0.0	0.0	0.0	9.5	9.5	4.8	0.0
	その他	19	5.3	0.0	0.0	5.3	5.3	0.0	10.5

(単位:%)		n	医療機関	交通機関	保育園、幼稚園、学校	その他	特に感じた ことはない	無回答
全体		350	2.9	5.7	15.4	3.4	46.9	6.6
障害別	肢体不自由	30	6.7	13.3	13.3	3.3	30.0	6.7
	音声・言語・そしゃく機能障害	26	0.0	11.5	19.2	7.7	26.9	7.7
	視覚障害	12	8.3	25.0	0.0	8.3	33.3	8.3
	聴覚・平衡機能障害	14	0.0	21.4	42.9	0.0	28.6	0.0
	内部障害	17	5.9	5.9	5.9	0.0	76.5	5.9
	知的障害	140	3.6	8.6	11.4	5.0	39.3	6.4
	発達障害	213	3.3	4.2	17.4	4.2	45.1	4.2
	精神障害	3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	高次脳機能障害	2	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0
	難病（特定疾病）	21	0.0	14.3	9.5	4.8	42.9	4.8
	その他	19	0.0	5.3	5.3	0.0	57.9	5.3

障害別にみると、“その他”を除く障害ではいずれも、「交通機関」か「保育園、幼稚園、学校」が最も高くなっており、特に“聴覚・平衡機能障害”では、「保育園、幼稚園、学校」が42.9%と4割を超えて、他の障害よりも高くなっています。

(2) 地域に求める合理的配慮

問 39 あなたが、地域(行政機関、民間事業者、住民等)に求める合理的配慮がありましたらお聞かせください。(自由記入)

地域に求める合理的配慮についての意見は 63 件ありました。「保育・教育」についての意見が 36.5%と最も多く、次いで「障害理解・思いやり・偏見の排除」が 27.0%、「福祉サービス」が 12.7%となっています。

主な意見は以下の通りです。

	総数	保育・教育	障害理解・思いやり・偏見の排除	福祉サービス	行政・各種手続き	施設等の受け入れ	交通事情・バリアフリー	情報周知・啓発	休憩・トイレ	経済事情・経済的支援
合理的配慮	63	36.5	27.0	12.7	6.3	6.3	4.8	3.2	1.6	1.6

◆主な意見（内容は要約・省略しています）

1. 保育・教育（23 件）

- ・支援学校・支援級・普通級の区分けをもっとゆるやかにしてほしい。現行の制度ではボーダーラインの子はどの学校・学級に通うか判断が難しい。また成長により、適した就学先が変わることもある。転籍せずとも“おためし”を可能にするなど、より本人と保護者にとって利用しやすい制度にして欲しい。
- ・学校教育の場で、合理的配慮を受ける権利があることが、一般にまだ広く認知されていない。学級内での他の児童やその家庭に対し、説明せねばならない場面があり、負担に感じる。インクルーシブ教育についての啓蒙活動がもっと必要だと考えている。

2. 障害理解・思いやり・偏見の排除（17 件）

- ・行政、教育機関ともに、2Eと呼ばれるギフテッド児への理解がまったくないか、ほとんどない。日本では、ギフテッド児への理解が他先進国に比べ、かなり遅れている。一方、不登校の問題の一部は、ギフテッド児の教育のあり方に原因があるとも言われており、文部科学省を中心に早急な対応を求めたい。
- ・自閉症への理解が足りない様に思えます。知的に問題がないとサポート枠が少なく自己負担がかなり大きいです。手帳が頂けるレベルではないとの事で自費でSTを週2回、学校へのアシタントを付けています。他国、英国、フランス、米国を参考に自閉症は知的だけの問題では無く、多くのサポートを幼少期からいかに早く進める事で自立へ繋がっていきます。

3. 福祉サービス（8件）

- ・児童発達支援や放課後等デイサービスの拡充を希望します。
- ・福祉サービスを受けるための仕組みが分かりにくい。介助している家族でもわかりにくいので、知的障害者なら尚更だと思う。こちらから申請しなくても、定期的に行政機関側から、こんな福祉サービスがあるから利用しませんか、というくらい積極的にアクションしてほしい。

4. 行政・各種手続き（4件）

- ・行政：各施設/行政/業者間でのデジタル化を進めて各家庭への負担を軽減して欲しい、情報はネット上で一括検索できるようホームページを整備していただきたいです。配布物等すべてが紙ベースのやりとりも負担です。

5. 施設等の受け入れ（4件）

- ・障害を持つ人を受け入れている、もしくは参加できるように工夫してくれている習い事やイベントが非常に少ない。習い事の障がい者クラスや、イベントにおける障がい者フレンドリーな回(例えば、舞台鑑賞で多少騒がしくしても良い回や音響効果を低減した回、内容を知的発達の遅い人でも理解しやすいように改編した回など)の工夫があっても良いのではないかと思う。

6. 交通事情・バリアフリー（3件）

- ・地下鉄のエレベーター不足(ベビーカーを持ち上げて階段を昇降する必要あり：春日駅)

7. 情報周知・啓発（2件）

- ・障がい者本人に知的障がいがあり、困っていることを自分で意思表示することができないことに不安を感じます。利用できるサービスなどの情報を分かりやすく提示していただくと助かります。

8. 休憩・トイレ（1件）

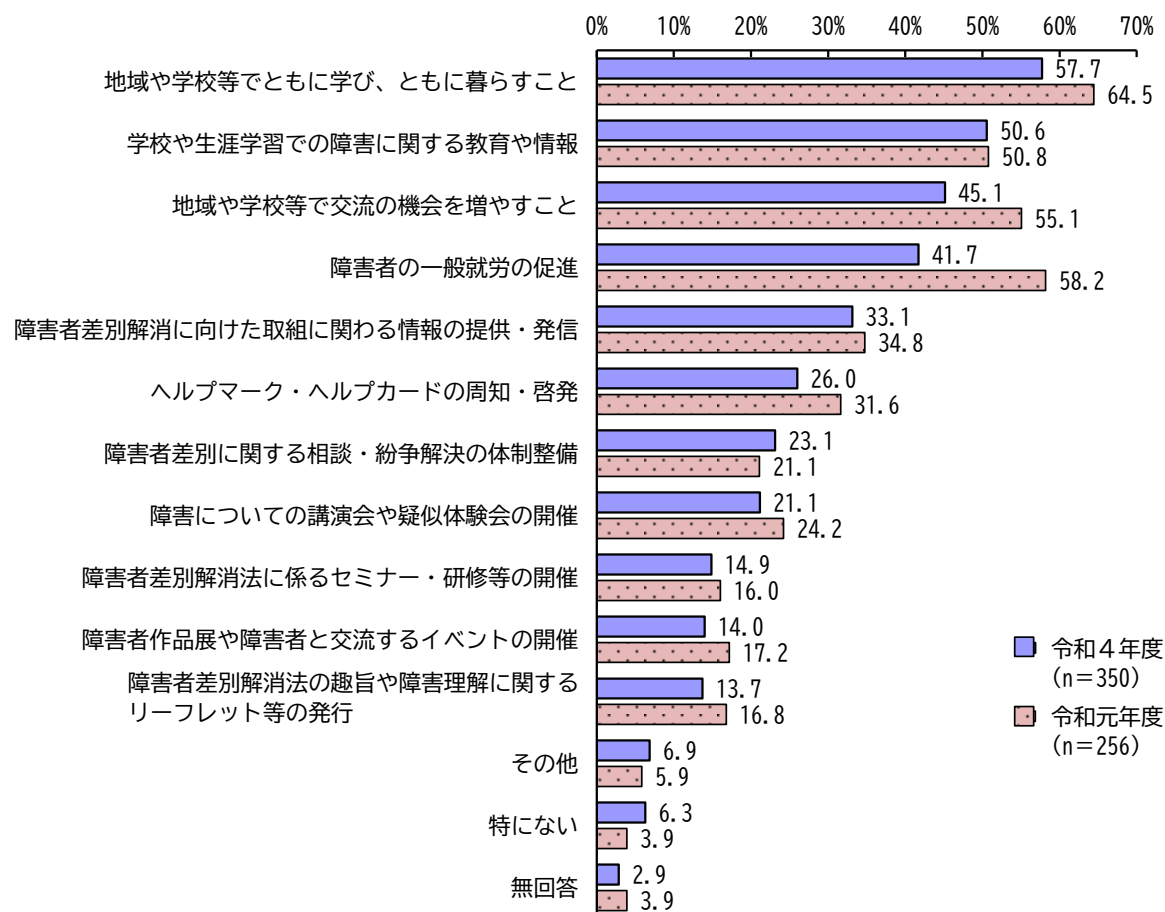
- ・区役所でおむつ替えをする際、おむつ替え台のあるトイレがみつからなく困った事があります。

9. 経済事情・経済的支援（1件）

- ・補助金、助成金の増額。

(3) 差別解消に必要なこと

問 40 障害者の差別解消を進めていくために必要なことはなんだと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)



障害者の差別解消を進めていくために必要なことは、「地域や学校等でともに学び、ともに暮らすこと」が57.7%と5割半ばを超えて最も高く、次いで「学校や生涯学習での障害に関する教育や情報」が50.6%、「地域や学校等で交流の機会を増やすこと」が45.1%、「障害者の一般就労の促進」が41.7%と4割を超えて続いています。

一方、「特にない」は6.3%となっています。

令和元年度と比較すると、「その他」と「特にない」を除いた11項目中、「障害者差別に関する相談・紛争解決の体制整備」以外の10項目すべてで令和元年度を下回っており、特に「障害者の一般就労の促進」が16.5ポイント、「地域や学校等で交流の機会を増やすこと」が10.0ポイント、「地域や学校等でともに学び、ともに暮らすこと」が6.8ポイント、「ヘルプマーク・ヘルプカードの周知・啓発」が5.6ポイントと、5ポイント以上下がっています。

【クロス集計】障害別

	n	障害者差別に関する相談・紛争解決の体制整備	障害者差別解消に向けた取組に関わる情報の提供・発信	障害者差別解消法※3に係るセミナー・研修等の開催	障害者差別解消法の趣旨や障害理解に関するリーフレット等の発行	障害者作品展や障害者と交流するイベントの開催	地域や学校等で交流の機会を増やすこと	地域や学校等でともに学び、ともに暮らすこと
(単位: %)								
全体	350	23.1	33.1	14.9	13.7	14.0	45.1	57.7
肢体不自由	30	20.0	43.3	20.0	20.0	20.0	40.0	66.7
音声・言語・そしゃく機能障害	26	38.5	50.0	26.9	15.4	19.2	57.7	57.7
視覚障害	12	33.3	41.7	8.3	16.7	8.3	50.0	58.3
聴覚・平衡機能障害	14	28.6	50.0	21.4	14.3	21.4	35.7	57.1
内部障害	17	29.4	23.5	5.9	11.8	11.8	35.3	70.6
知的障害	140	25.0	36.4	18.6	15.7	18.6	52.1	62.1
発達障害	213	23.5	33.3	15.0	16.0	12.7	42.7	55.4
精神障害	3	33.3	0.0	0.0	33.3	33.3	66.7	66.7
高次脳機能障害	2	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	50.0	100.0
難病（特定疾病）	21	38.1	47.6	28.6	23.8	19.0	52.4	71.4
その他	19	26.3	36.8	10.5	5.3	15.8	52.6	89.5

	n	学校や生涯学習での障害に関する教育や情報	障害についての講演会や疑似体験会の開催	障害者の一般就労の促進	ヘルプマーク・ヘルプカードの周知・啓発	その他	特になし	無回答
(単位: %)								
全体	350	50.6	21.1	41.7	26.0	6.9	6.3	2.9
肢体不自由	30	53.3	26.7	43.3	30.0	3.3	13.3	3.3
音声・言語・そしゃく機能障害	26	50.0	23.1	61.5	34.6	3.8	7.7	0.0
視覚障害	12	58.3	33.3	66.7	16.7	0.0	8.3	8.3
聴覚・平衡機能障害	14	64.3	35.7	57.1	21.4	0.0	7.1	0.0
内部障害	17	58.8	29.4	47.1	17.6	5.9	11.8	0.0
知的障害	140	55.0	20.7	50.0	30.7	5.7	2.9	1.4
発達障害	213	50.2	23.0	41.8	27.7	8.5	7.0	2.8
精神障害	3	66.7	66.7	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0
高次脳機能障害	2	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病（特定疾病）	21	66.7	28.6	47.6	33.3	9.5	4.8	0.0
その他	19	57.9	10.5	31.6	26.3	21.1	0.0	0.0

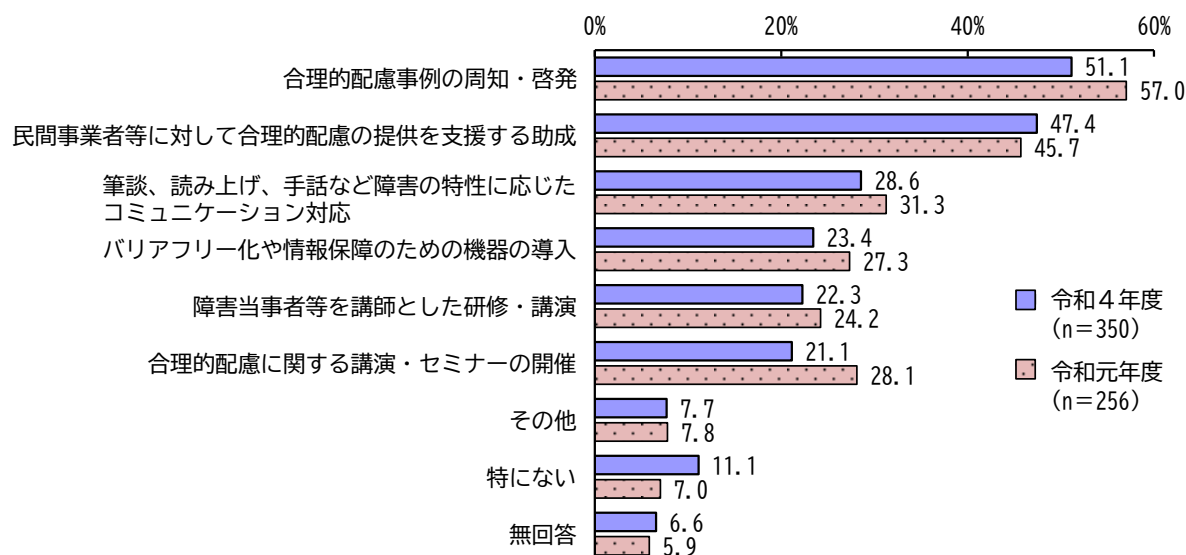
障害別にみると、いずれの障害でも「地域や学校等でともに学び、ともに暮らすこと」が5割を超えており、“音声・言語・そしゃく機能障害”、“視覚障害”、“聴覚・平衡機能障害”以外の障害で最も高くなっています。

“音声・言語・そしゃく機能障害”と“視覚障害”では、「障害者の一般就労の促進」が6割を超えて最も高くなっています。

“聴覚・平衡機能障害”では、「学校や生涯学習での障害に関する教育や情報」が64.3%と6割半ば近くで最も高くなっています。

(4) 合理的配慮に必要なこと

問 41 社会的障壁の除去に向けて、合理的配慮を進めていくために必要なことはな
んだと思われますか。(あてはまるものすべてに○)



合理的配慮を進めていくために必要なことは、「合理的配慮事例の周知・啓発」が 51.1%と唯一5割を超えて最も高く、次いで「民間事業者等に対して合理的配慮の提供を支援する助成」が 47.4%と続いています。

一方、「特にない」は 11.1%となっています。

令和元年度と比較すると、「その他」と「特にない」を除いた6項目中、「民間事業者等に対して合理的配慮の提供を支援する助成」以外の5項目すべてで令和元年度を下回っており、特に「合理的配慮に関する講演・セミナーの開催」が 7.0 ポイント、「合理的配慮事例の周知・啓発」が 5.9 ポイントと、5 ポイント以上下がっています。

【クロス集計】 障害別

	n	合理的配慮に関する講演・セミナーの開催	合理的配慮事例の周知・啓発	筆談、読み上げ、手話など障害の特性に応じたコミュニケーション対応	バリアフリー化や情報保障のための機器の導入	障害当事者等を講師とした研修・講演
(単位: %)						
全体	350	21.1	51.1	28.6	23.4	22.3
障害別						
肢体不自由	30	30.0	56.7	26.7	46.7	23.3
音声・言語・そしゃく機能障害	26	19.2	50.0	34.6	23.1	19.2
視覚障害	12	41.7	41.7	16.7	16.7	33.3
聴覚・平衡機能障害	14	35.7	42.9	57.1	57.1	21.4
内部障害	17	17.6	47.1	23.5	23.5	17.6
知的障害	140	17.1	52.1	24.3	20.0	23.6
発達障害	213	21.6	54.5	29.1	19.2	23.5
精神障害	3	66.7	66.7	66.7	66.7	66.7
高次脳機能障害	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病（特定疾病）	21	28.6	66.7	28.6	38.1	38.1
その他	19	5.3	42.1	31.6	31.6	10.5

	n	民間事業者等に対して合理的配慮の提供を支援する助成	その他	特にない	無回答
(単位: %)					
全体	350	47.4	7.7	11.1	6.6
障害別					
肢体不自由	30	53.3	10.0	13.3	3.3
音声・言語・そしゃく機能障害	26	38.5	11.5	7.7	15.4
視覚障害	12	50.0	0.0	8.3	8.3
聴覚・平衡機能障害	14	50.0	14.3	7.1	7.1
内部障害	17	41.2	0.0	17.6	11.8
知的障害	140	52.9	7.1	4.3	7.1
発達障害	213	47.4	8.5	11.3	4.7
精神障害	3	66.7	0.0	0.0	0.0
高次脳機能障害	2	50.0	50.0	0.0	0.0
難病（特定疾病）	21	52.4	0.0	4.8	4.8
その他	19	42.1	26.3	21.1	0.0

障害別にみると、“視覚障害”、“知的障害”では、「民間事業者等に対して合理的配慮の提供を支援する助成」が最も高くなっています。また、“肢体不自由”、“視覚障害”、“知的障害”では5割を超えています。

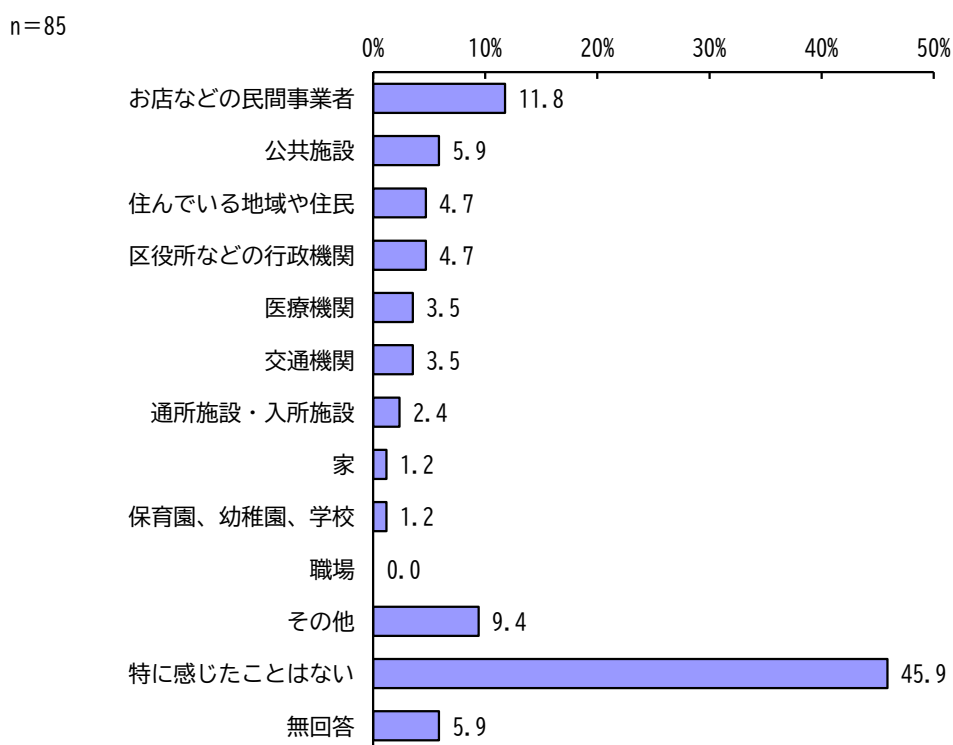
“聴覚・平衡機能障害”では、「筆談、読み上げ、手話など障害の特性に応じたコミュニケーション対応」と「バリアフリー化や情報保障のための機器の導入」がともに57.1%と5割半ばを超えて最も高くなっています。

それ以外の障害ではいずれも、「合理的配慮事例の周知・啓発」が最も高く、特に“難病（特定疾病）”では66.7%と6割半ばを超えて、他の障害よりも高くなっています。

【施設に入所している方を対象にした調査】

(5) 地域で差別を感じる場面

問 24 あなたが、地域で障害者への差別や合理的配慮の不提供を感じる場面をお聞かせください。(あてはまるものすべてに○)



地域で障害者への差別や合理的配慮の不提供を感じる場面は、「お店などの民間事業者」が 11.8%と唯一 1 割を超えて最も高く、次いで「公共施設」が 5.9%、「住んでいる地域や住民」と「区役所などの行政機関」がともに 4.7%と続いています。

一方、「特に感じたことはない」は 45.9%と 4 割半ばを占めています。

（６）地域に求める合理的配慮

問 25 あなたが、地域(行政機関、民間事業者、住民等)に求める合理的配慮がありましたらお聞かせください。(自由記入)

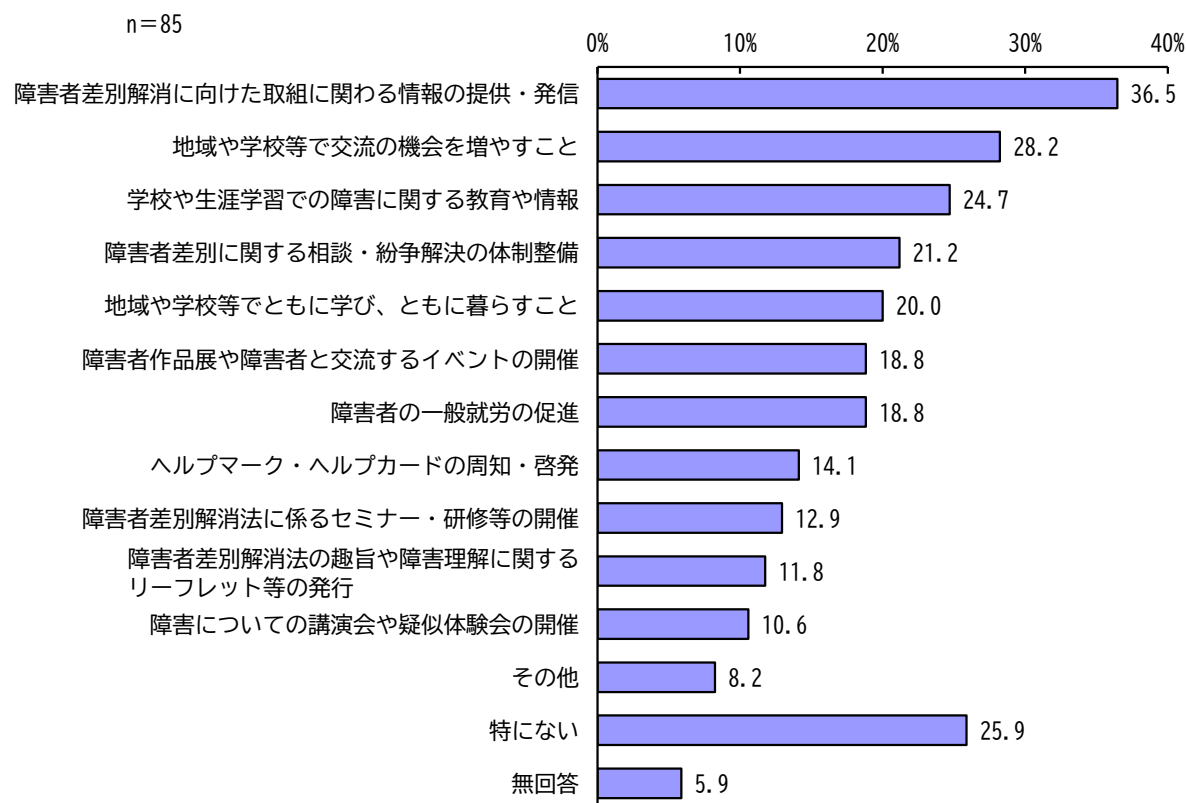
地域に求める合理的配慮についての意見は6件ありました。

意見は以下の通りです。

- ・医療について、体調不良等で掛かりたい時に、障害のある人だと伝えると断られるという経験が度々ある。医療という特性上致し方ない部分はあるながらも、受け入れられるかどうかのアセスメントをもう少ししっかり行って頂けるような仕組み作りを自治体をはじめ行政に進めてもらいたい。
- ・自署出来ない本人の代行許可。
- ・親なきあとの日常的な身上監護をしてもらいたい。
- ・このアンケートは、重度の知的障害者等、本人が理解出来ない内容ばかりなのに、代理の家族や施設職員が推測しながら回答することの是非はどうか。あくまでも本人の意思を尊重する考えが大切と思うが、コロナ禍で面会もままならない中、非常に悩みつつ本人の意思や気持ちを考えながら、周囲で普段感じた点を回答せざるを得ず、悩ましい声が出ている。
- ・地下鉄のエレベーターなど混んでいて車イスで乗れない。
- ・民間のお店（障害者用トイレがない）にせまくて入れない。
- ・車椅子でのバス利用が使用しづらい。（乗務員さんが車椅子固定に手間が掛かるのは十分理解しているが、不快な態度や顔に出されると哀しい気持ちになる）

(7) 差別解消に必要なこと

問 26 障害者の差別解消を進めていくために必要なことはなんだと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

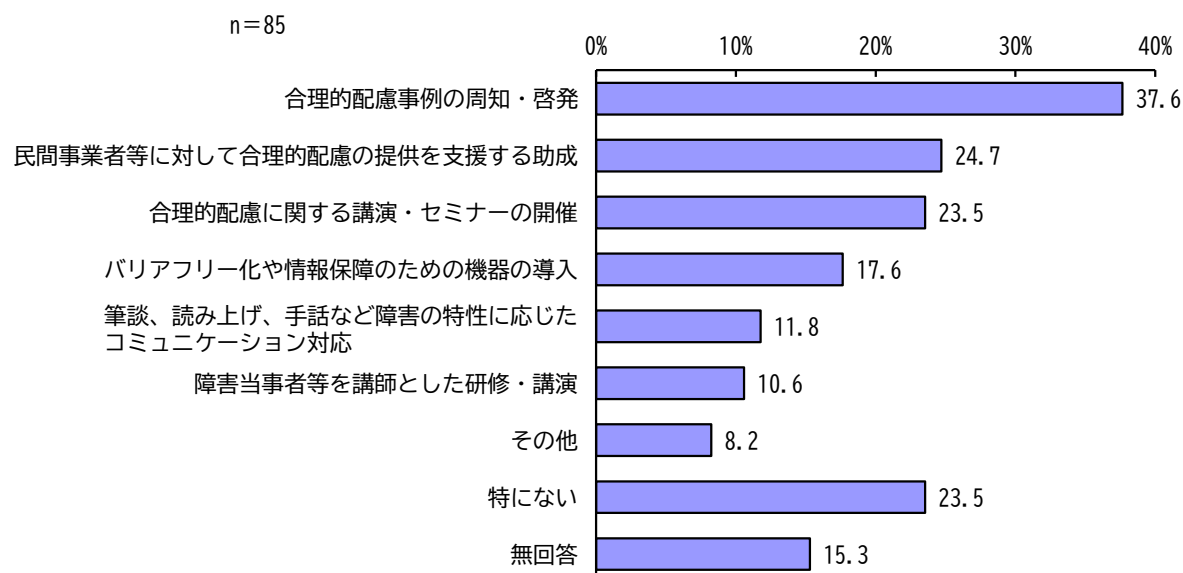


障害者の差別解消を進めていくために必要なことは、「障害者差別解消に向けた取組に関わる情報の提供・発信」が36.5%と3割半ばを超えて最も高く、次いで「地域や学校等で交流の機会を増やすこと」が28.2%、「学校や生涯学習での障害に関する教育や情報」が24.7%、「障害者差別に関する相談・紛争解決の体制整備」が21.2%、「地域や学校等でともに学び、ともに暮らすこと」が20.0%と2割以上が続いています。

一方、「特にない」は25.9%と2割半ばを占めています。

(8) 合理的配慮に必要なこと

問 27 社会的障壁の除去に向けて、合理的配慮を進めていくために必要なことはな
んだと思われますか。(あてはまるものすべてに○)



合理的配慮を進めていくために必要なことは、「合理的配慮事例の周知・啓発」が 37.6%と 3 割半ばを超えて最も高く、次いで「民間事業者等に対して合理的配慮の提供を支援する助成」が 24.7%、「合理的配慮に関する講演・セミナーの開催」が 23.5%と 2 割を超えて続いています。

一方、「特にない」は 23.5%と 2 割を超えています。